

## 第 2 回 芦屋市地域福祉計画策定委員会（要旨）

日 時	平成23年5月19日(木) 13:30 ~ 15:35		
会 場	福祉センター 3階 会議室 1		
出 席 者	委員長 牧里 每治 副委員長 若林 益郎 委員 久武 正明, 許 和子, 杉田 俱子, 中谷 多恵子, 森 幸子, 大前 香織, 上野 義治, 山内 祥弘, 東郷 明子 (敬称略) 事務局 地域福祉課 寺本 慎児, 細井 洋海, 吉川 里香, 小川 和真 社会福祉協議会 宮平 太 エフプラン研究所 原田 仁		
会議の公表	公 開	非公開	部分公開
傍聴者数	4人		

### 1 開 会（事務局）

【市の組織改正（4月1日付）について】

- ・保健福祉部内子ども・高齢者・健康を担当する部長を創設した（2部長制）。
- ・地域福祉課にトータルサポート担当を設置し，専任の課長と高年福祉課兼務の計5人の保健師を配置した。従来の制度・機関優先ではない「人（当事者）を優先した組織づくり」の最先端として，保健師の専門性を活かして世帯の課題を見据えた支援を展開していくこととしており，4月から26人の相談を受けている。

【委員会の成立について】

- ・18名中11人の委員の出席により成立。

### 2 牧里委員長あいさつ

阪神芦屋駅から歩いて来て，まちの見学になりました。東日本大震災のことが頭に浮かび，ここに津波が来たらどうなるかと考えると，やはり震災などのときには「遠くの親戚より近くの他人」が大事だとあらためて感じました。まさに地域福祉の課題であり，日々のつながりがいざというときに力を発揮します。本日は検討課題が盛りだくさんなので，よろしくお願いします。

### 3 議 事

資料確認

- ・事前送付：第4次総合計画（本編・概要版）市民意識調査の結果（速報）
- ・当日配付：資料1～3，参考1～3

#### （1）市民意識調査の速報について

【地域福祉に関する市民意識調査の結果（選択肢項目の集計速報）を説明。】

牧里委員長：市民意識調査の結果について意見や感想があれば出してください。「地域福祉計画があまりにも知られていないのはショックだ」など，なんでも結構です。

上野委員：市民意識調査で指摘された問題に対して、この委員会は具体的にどうすればよいか方策を議論し、早速着手しなければいけないと思います。この委員会が設置されたことさえ、どれくらいの市民がご存じかもわからず、何をしようとしているかはほとんど理解されていないなかで、参画を呼びかけても無理だと思います。広報やホームページが発信のツールになっていますが、もっとインパクトのある方法が（具体的にはわかりませんが）あればよいと感じます。

久武委員：「芦屋ベンチプロジェクト」のような具体的な計画は、非常に伝わりやすいと思います。活動に参加しやすくするための条件（問11）の回答でも示されているように、呼びかけや気軽に参加できる機会があれば、参加できる人はかなりおられると思いますし、震災の支援でもボランティアの方がかなり参加されています。ベンチプロジェクトはいろいろな場所にベンチを設置するのに、たくさんの人に参加してもらえます。イベント的なものは目的がはっきりしていて、人も集まりますので、それをメディア等で発信していけば市民にも伝わり、イメージもできて活動に入りやすいと思います。

牧里委員長：具体的なかたちにおとさないで、地域福祉計画は理解してもらえないという意見だと思います。

杉田委員：前はまったく意見を出せずに申し訳ありませんでした。地域福祉計画だけでなく、市がいろいろしていることを市民は知らないのだから、関心をもってもらうPRのしかたが必要だと思いました。震災についても国のできていない面ばかり出されていますが、私は、芦屋市がいろいろしていることも、このような委員会に参加してはじめて知りましたので、例えばトータルサポート担当を設置したことなどにももっとスポットを当てて、広報に載せてほしいです。また、この委員会についても、例えば広報に小さな枠をいただいて会議のようすを報告し、意見を呼びかける取り組みを何回も行って、「続けている」ということをアピールしてはどうかと思います。

市民会議でベンチプロジェクトを提案しましたので、市民の34.5%の方が関心をもってくださり、9.2%の方が参加したいと答えていただいたことは、すごく嬉しいです。すてきなベンチをたくさんつくり、次の震災が起きる前に、人が集まる場所があちこちでできるよう、具体的に考えていきたいと思いました。

牧里委員長：ベンチプロジェクトへの関心が高かった理由について、どのように分析していますか。

中谷委員：はっきりとはわかりませんが、それぞれの人の心のうちに「みなさんと接したい」という気持ちがあるのではないかと思います。高齢者の方が多くなると外に出ても自分からは声をかけにくく、人とふれあうことが難しくなりますので、表には出さなくても「接したい」というのが本音ではないでしょうか。市民会議では、ベンチがあればそこから何か生まれるという話をしていました。

事務局（原田）：今回の調査を性別・年齢別に集計すると、ベンチプロジェクトは若い男性で関心をもつ人の割合が大きいという結果も出ており、広い層の市民にアピールできるプロジェクトだと考えられます。

中谷委員：市民会議では障がい者や高齢者の利用をイメージしていましたが、それだけではないのですね。

東郷委員：このプロジェクトはいちばんわかりやすく、取り組みやすいということではないかと思います。

第1次計画の計画書は民生委員もいただきましたが、読むことはありませんでした。

概要版を見ても市民はわからないので、もっとわかりやすくアピールする方法がないかと思います。

杉田委員：きれいな冊子にお金をかけなくても、担当者が説明する場をつくれば、もっとよくわかったと思います。

牧里委員長：第1次計画はともかく、本日の議題でもある第4次総合計画の広報は、どのようにすすめているのですか。

事務局（寺本）：市民のみなさんは、計画書を読んでも自分の生活とどのようにつながっているかが見えにくいので、何かに具体的にに関わり、それは計画がベースとなっていてすすんでいることを認識していただくのが、いちばんよいと感じました。

森委員：根本的なこととして、今回の調査の有効回収率は38%ですが、予想とくらべていかがですか。

事務局（寺本）：40%を超えることを目標にしていました。同じ時期に高齢分野の計画策定のためのアンケート調査を、65歳以上で要介護認定を受けていない人3,000人を対象に行い、回収率は74%でした。地域福祉計画も高齢者の方は回収率が高いのですが、20歳以上の方が対象なので、このような回収率だったと分析しています。

森委員：地域福祉に関心がないから返信しないと一概に決めつけることはできませんが、市民の4割ぐらいしか地域福祉に関心がなく、しかも、多少の関心はあると思われる回答者のなかでも「何も活動していない」、「全く知らない」という答えが非常に多く、もっと関心をもってもらって回収率を上げていかないと、市民全体の意識はわからないので、調査の個々の内容よりも、まず、関心をもってもらうためのしかけが必要だと思います。私たちはいろいろな活動に参加していますが、決まった人たちで決めて、運営していくということでは、いつまで経っても市民全体の参加は望めないと思いました。

事務局（原田）：回収率が38%というのは悲しい現実ですが、都市部での地域福祉計画のアンケートとしては特に低いとはいえません。今回の調査では記述回答のなかで非常に的確なご意見を多くいただきましたが、それをみても、地域福祉自体が非常に漠然でわかりにくいいため、この調査の回答がしにくいと感じた方がかなりおられたことがうかがえます。その意味で第2次計画では、「地域福祉とは何か」を市民のみなさんにご理解いただけるようにすることが、非常に大事な課題だと思います。

牧里委員長：市の広報の手段として、広報紙やホームページ以外のものでしょうか。

事務局（寺本）：議会のようにインターネットで中継したりもしていますが、市が直接行っているのは広報紙とホームページだけです。ただし、個別の事業についてのPRなどは各セクションで行っています。

牧里委員長：このような紙媒体の調査は、高齢者では回答する人が多いですが、若い人にはなかなか見てもらえません。そういう人たちに対するパソコン等を活用した情報の流し方はないのですか。

事務局（寺本）：ホームページはありますが、他市のようなYouTubeを使った動画配信やSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用などは、まだできていません。市民参画の流れのなかで広く市民の意見をお聴きするパブリックコメントは実施していますが、あまり多くのご意見はいただけておらず、iPadをはじめとする端末等の活用は必要だと思います。

牧里委員長：Facebook（ソーシャル・ネットワーキング・サービスのひとつ）の力でオバマ大統領が当選したり、北アフリカの政権が倒れるなどの動きも出ていますが、そうしたことは、芦屋ではないのですか。

事務局（原田）：記述回答では，何人かの方が「メールで情報を流してほしい」と書かれており，そういうものを活かしたアンケートのやり方もあるかもしれません。

牧里委員長：市の広報委員はどのように選び，どんな活動をしているのですか。

事務局（寺本）：具体的には把握していませんが，月2回の広報を発行するのが定例になっており，特別にこうした議論は行っていません。

牧里委員長：市役所の職員は，広報をどれくらい読んでいますか。ある市で調査すると常に読むのは35%と今回の調査の回収率よりも低く，まず市役所のなかでなんとかしないとはいけませんが，広報を出していてもきちんと読まれているかどうかの確認はできていないなど，ベースとなるメンテナンスが，きちんとできていません。

事務局（寺本）：広報は各課で供覧しています。また，「お困りです課」に届いたメールを各課に転送して対応したり，職員が提案する制度，課として市民サービスを改善する取り組みを行っていますが，職員どうしが自由に情報を交換したり意見を言いあえる掲示板のシステムは，投稿する人がおらず動いていません。

牧里委員長：そのようなベースをつくるのが市役所の役割であり，ベンチプロジェクトのようなアイディアは市民が出せばいいのですが，良いアイディアを出しても載せてくれる媒体がなければ，伝わりません。

杉田委員：例えば，「アンケートに答えたら何かもらえる」というぐらいのことまでしても，回収率を高めることには値打ちがあると思います。

ホームページは，市民が市役所の情報を取り出すことはできますが，市民が意見を言うなどの双方向のしくみには，なっていないのではないですか。

事務局（寺本）：市民のみなさんからのご意見，ご要望や苦情は，メールで日常的にいただいております，所管課から回答しています。

杉田委員：この調査で，困ったときの相談先（問6）として75.2%の人が市の相談窓口をあげていることは，すごく誇りに思っています。

事務局（寺本）：その回答が世代によってどのように違うかも，みていきたいと思えます。

牧里委員長：この調査は高齢者の回収率が高かったもので，高齢者の方は市を信頼しているということです。

森委員：ホームページのアクセス数はどれくらいですか。

事務局（寺本）：カウンターは付いていると思いますが，把握していません。

森委員：震災支援の集まりなどを開くと，ホームページをチェックして見つけたという人がすごく多く，見ている人は思っている以上に多いので，より良い身近な情報を，もっと提供していただければよいと思います。

牧里委員長：アクセス数はページごとには出ないのですか。それぞれにカウンターを付けておけば，このような調査をしなくてもわかることがあるのではないですか。

事務局（寺本）：ページごとにカウンターを付けているかどうかは承知していませんが，震災後はアクセス数が増えるとともに，ボランティア活動や物資の支援などについての電話での問い合わせが，かなりの数にのぼっているようです。

牧里委員長：この議題だけに時間を取ることはできませんので，調査の結果を大事にしながら，第2次計画に関わる意見をいただいきたいと思えます。

## （2）第4次総合計画について（計画の視点）

【第4次芦屋市総合計画概要版，第2次計画の枠組みを検討していくうえでの視点（たたき台）[資料1]を説明。】

牧里委員長：事務局の説明に対して、意見はありませんか。

上野委員：計画の視点の（分野別計画との連携）は非常に重要な視点だと思います。ここに書かれている横断的な対応は、新たに設置されたトータルサポート担当がコーディネートしていくと考えていいですか。

事務局（寺本）：トータルサポート担当は個別支援が中心になりますが、同じ地域福祉課に位置づけられていますので、当然、計画にも入っていきます。ご指摘の部分に記載していることは、第1次計画でも地域福祉計画を福祉分野の計画の真ん中に位置づけていましたが、「第2次計画では（たいへん抽象的ですが）もっと強いつながりをもちたいという思いがある」ということです。

上野委員：この点にいちばん期待したいと思っています。

東郷委員：私たち民生委員は、これまで住民や自治会の方々に「困りごとがあれば民生委員に言ってもらえば、高齢者生活支援センターにつながります」ということでやってきましたが、トータルサポート担当ができ、今後はどうすればいいのですか。

事務局（細井）：これまで高齢者生活支援センターにつないでいただいていたことは、今までどおりで結構です。トータルサポート担当は、基本的には、各関係機関が保健師の専門性が必要だと判断された事例に関わらせていただくというスタンスです。

東郷委員：どのような場合に、トータルサポート担当につながればいいのですか。

事務局（細井）：地域からは、これまでどおりに各関係機関につないでいただき、世帯全体の状況をみながらチームで支援していく必要があれば、トータルサポート担当が関わらせていただくというイメージです。

東郷委員：民生委員が高齢者生活支援センターにつなぐかたちが定着してきたところに、新たにトータルサポート担当ができたので、どのように分けて対応すればよいのだろうと思いました。

事務局（寺本）：これまで行政の縦割りが弊害になってきた部分があったので、それを横につないで、支援のスピード感を高めようということです。また、制度に縛られずに分野を超えて関わることで市民の視点にたった福祉をすすめていくための、行政内部のしくみを個別支援に反映すると考えていただければよいと思います。

上野委員：計画の視点の（市民意識調査の反映）に「ニーズを的確に反映」と書かれており（私自身も反省しているのですが）、市民意識調査のなかにサービス利用者のニーズに関する項目を落とし込んでおく必要があったと思います。今回の調査は提供する側の設問が多かったですが、受け手のニーズについては別の調査があるのですか。

事務局（原田）：今回の調査でニーズが把握できるのかという点については、記述回答のなかでもかなり指摘をいただいています。しかし、前回の委員会でも議論されたように、回答される方の負担を考えると設問数はあまり多くできませんので、今回の調査では地域福祉に関する意識を広くお訊きし、高齢者や障がい者の分野でも別の調査が行われますので、それらも含めていろいろなかたちでニーズを把握できると考えています。また、今回の調査でも記述回答として具体的なニーズをたくさん書いていただいていますので、質的なデータとして活用していきたいと思っています。

上野委員：「ニーズ（こんなものがほしい）とシーズ（こんなものを提供したい）」のマッチングが大事だと思いますので、そのための実態を、まず私たちがきちんと情報共有するところから、スタートしなければならないのではないかと思います。

許委員：市民意識調査の結果について、例えば芦屋のまちの環境（問1）についての設問で、「子育ての環境」に関して多くの方がよいと答えていても、「そうは思わな

い」という少数意見も引き上げる必要があると思います。また、同じ設問の「障がい者の生活環境」の分析は、「わからない」と答えた人が多いというよりも、生活しやすい環境ができていない(「どこからといえばそうは思わない」と感じる人が多いということだと考えられるので、そのような意見を重視してほしいと思います。

また、計画の視点の文章は、特に若い人には、最後まで読んでもらえるだろうかと感じました。タイトルの副題として、例えば「地域でしあわせになるための支えあい」などの平易な文章を入れれば、読んでみようという気になります。表現が難しいとそれだけで引いてしまいますので、もっとわかりやすい単語を使った方がよいと思います。

杉田委員：最初の市民会議で「地域福祉」と聞いたとき、頭のなかで「あなたのしあわせ・私のしあわせ」と置き換えて考えていきました。地域福祉という言葉は、ふつうの生活をしている人にはすごくわかりにくいと思います。

久武委員：総合計画について、第4次だけでなく第3次計画でも同じように感じましたが非常に抽象的ですので、概要版の6～7ページの施策目標等の表のそれぞれの項目ごとに、例えば「福祉センターができた」など、計画に基づいてできたことやできなかったことを写真なども入れて示していけば、わかりやすいと思いました。実際に多くの取り組みをされているのに、書いてなければ市民にはわかりません。また、そうすれば計画のどの部分がすすんだのかもわかると思います。

牧里委員長：総合計画は10年計画です。つまり、例えば小学6年生の子どもは22歳、中学3年生は25歳になるまでの計画ですので、その子どもたちにも見てもらわないといけません。しかし、この概要版を学校に配っても子どもは読まないの、小中学生が読めるようにするという事なども、考えた方がよいのではないのでしょうか。

杉田委員：計画の成果を書くのはよいことです。福祉センターについても、喫茶店が男性高齢者のたまり場になっているなど、具体的なものが見えればよいと思います。

牧里委員長：子どもたちに伝えようと思えば、そういうことも必要だと思います。また、子どもたちに伝えるという目線で書けば、大人にも伝わります。

森委員：私たちは福祉センターの2階にあるボランティア活動センターを拠点として活動していますが、ここに移ってからたくさんの市民が来られています。1階の交流スペースも地域の子どもの居場所になっていますし、さまざまなイベントが開かれるなど、当初の計画よりも多くの方に利用されています。しかし、今の議論を聞くと、市民にはあまり知られていないということで、ショックを受けました。何か方法を考えていかなければいけないと思います。

牧里委員長：時間がなくなってきましたので、次の議題にすすみます。「検討部会」についてですが、今の議論にも関わってくると思います。

### (3) 検討部会の設置について

【第2次芦屋市地域福祉計画検討部会の設置について[資料2]を説明。】

牧里委員長：検討部会の設置について、質問や意見はないでしょうか。

許委員：だいたいの日程は決まっていますでしょうか。

事務局(寺本)：資料2に示していますように、月1回程度(6月は本来5月末に開催すべきものがずれ込むため初旬と下旬に2回)開催したいと考えています。市民のみなさんにできるだけ参加していただきたいと考えており、この委員会の委員や市民会議の委員以外の方にも声をかけていただいて、広げていきたいというイメージをもっています。

大前委員：高齢者生活支援センターで「地域発信型ネットワーク」の会議を開催していますが、自治会等から参加される方は決まっていることが課題になっています。検討部会などに参加された方が地域に戻ってリーダーとして参加していただくことについて、どのように考えればよいでしょうか。

事務局（寺本）：「地域発信型ネットワーク」については、第1次計画のなかではきちんとした位置づけができていませんが、第2次計画ではきちんと位置づけて、地域の方に地域で活動していただくかたちをつくっていかねばならないと思っています。そのために、計画策定の過程のなかで動きをみながら、つながりづくりや活動内容の充実をすすめていくことなどを、想定していきたいと思っています。

牧里委員長：他に意見がなければ、部会方式で具体的なプログラムにしていくというかたちで、すすめていきたいと思います。

#### （４）今後のスケジュールについて

【地域福祉計画スケジュール [資料3] を説明。】

牧里委員長：スケジュールはこれでいいですか。

森委員：策定委員会は何時からですか。

事務局（寺本）：13時30分から、この会場（福祉センター3階会議室1）で行います。

#### （５）その他

牧里委員長：「その他」について、何かありますか。

事務局（寺本）：事務局からは特にありません。

牧里委員長：委員のみなさんから何かありませんか。

なければ予定した議題は終了しましたので、閉会させていただきます。ありがとうございました。